

令和4年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		こころ豊かに健やかに 夢を抱いて未来を創造する生徒の育成 自ら学び 自ら考え 自ら行動	4月			2～3月		
推進主体		校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、図書館教育担当を中心として推進	学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標		具体的な行動目標	
		学力に関する前年度の状況・経年の課題等	(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
							評価	
学力の状況	これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む)	○「漢字を読む」問題では正答率が全国のポイントよりも高く、言語事項に関する定着がみられる。また、「話すこと・聞くこと」の能力も、少しずつではあるが伸びている傾向がみられる。 ◆「書くこと」の領域においては苦手意識を抱いており、自分の考えをまとめて具体的に意見を書くことに課題がみられる。 ○「数と式」や「図形」の分野においては、基礎的基本的な内容の習得が概ねできている。 ◆テキストを読み解き、性質を見出し問題解決の方法を説明するなど、数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。	○わかるよこびを実感できる学習指導の工夫と授業改善	○学校評価アンケートで、「授業が分かりやすい」という肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。 ○全国学力・学習状況調査において、「ICT機器を使用している」と回答する生徒の割合が60%以上 ○テーマを設定した互見授業を実施する。 ○iPadを活用した授業研究を年間2回以上実施する。	○「生徒が主体的に取り組む学習指導～主体的、対話的な深い学びの研究～」を研究テーマとして、学習指導の工夫、授業改善に取り組む。 ○互見授業を計画的に行うと共に、普段の授業参観も活発に行うことで、成長し続ける意欲を持った教師集団を作る。 ○iPadの効果的な活用を目指して、授業研究および研修を行う。			
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ◆基礎的基本的な内容については概ね理解しているが、応用力を必要としたり自分で論理的に考えて説明したりということに課題がみられる。 ◆効果的な家庭学習を行うために、自分で計画を立てて実行させると共に、補習や課題の提供を学校全体の取り組みとして充実させることで、生徒への支援を行う必要がある。	○主体的に学ぶ意欲を育てる学習相談の充実	○学校評価アンケートで、「授業が分かりやすい」という肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。 ○全国学力・学習状況調査において、「自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の割合が70%以上 ○全国学力・学習状況調査において、「読書が好き」と回答する生徒の割合が、65%以上。 ○一日20分以上読書するという生徒の割合が、60%以上。	○全国学力・学習状況調査や日々の学習状況・生活状況の基づいて、基礎・基本の知識や技能の習得に努める。 ○「がんばりタイム」や「兵庫型学習システム」を活用して、少人数のきめ細かな指導や個々のつまづきに応じた指導の充実を図る。 ○生徒会図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、積極的な図書館の活用を進める。 ○1、2年は朝の10分間読書を継続して行い、読書習慣の定着を図る。			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習態度で、真面目に取り組んでいる。多くの生徒は課題に前向きに取り組む、提出物への意識も高い。 ◆家庭での学習習慣に一定程度の定着がみられてきたが、継続的な取組みに課題が残る。日ごろから予習、復習に主体的に取り組めるようにする必要がある。	○学校・家庭・地域の連携と協働の推進	○地域ボランティアとの交流や生徒の地域貢献活動を活発に行う。 ○学校評価アンケートで、「開かれた学校づくり」と「特色ある学校づくり」に関する肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに80%以上。	○学校の情報や生徒の活動の様子を、通信や学校HP、メールなどを通して保護者や地域へ発信する。 ○家庭や地域との連携と協働により、地域の祭りや防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進する。 ○コミュニティスクールの取組を進め、生徒や教職員が地域ボランティアと交流・協働する体制の整備を行う。			
学力向上に係る学習状況	学校評価などのアンケート調査やこれまでの全国学力・学習状況調査の質問紙の経年変化による児童・生徒の状況	○規則を守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけている生徒が大多数で概ね良好である。 ◆家庭学習の時間確保とともに、自分で計画を立てて取り組むことを習慣づける必要がある。 ○授業が分かりやすいという肯定的評価をする生徒の割合は90%以上である。 ◆失敗を恐れずに挑戦する生徒の割合は低いが、人の役に立ちたいと考える生徒の割合はとても高い。	○自尊感情・自己肯定感を育成し、自他ともに命と人権を基盤にした「豊かな心」を育成する教育の推進	○全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあると思う」「人が困っているときは、進んで助けている」と回答する生徒の割合が、80%以上。 ○全国学力・学習状況調査やアンケートにおいて、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」と回答する生徒の割合が65%以上 ○OPTAとともに人権講演会を実施する。	○授業をはじめすべての教育活動を通して、成功体験につながる機会を増やす。 ○家庭や地域との連携と協働により、地域の祭りや防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進する。 ○小学校での学びを教職員で共有し、校内道徳・人権委員会を中心に、系統だった道徳の授業を行う。 ○各種調査およびアンケート、教育相談等で生徒の実態把握を行い、学習や生活に関わる不安や悩みの解消に努め、個々の生徒理解を図る。			
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	○「生徒が主体的に取り組む学習指導～主体的、対話的な深い学びの研究～」をテーマに、研究を推進している。 ◆「キャリア教育」と「特色ある学校づくり」を効果的に推進していくことが課題である。	○自分らしい生き方を実現する力を育てるキャリア教育の推進	○全国学力・学習状況調査において、「夢や目標を持っている」と回答する生徒の割合が73%以上 ○トライやる・ウィークでの活動を通して将来について考え、学ぶこと・働くことの意義を理解する。 ○キャリアノートを積極的に活用して進路学習との連携を進める。	○「トライやる・ウィーク」や「わくわくオーケストラ教室」の取り組みを充実させ、本物に出会う体験をもとに豊かな感性や自ら考えて行動する力を育てる。 ○キャリアノートを活用し、自己の将来を描くキャリアプランニング能力の育成を図る。 ○進路情報を提供する機会を増やす。			
	校内研修の状況	○互見授業や授業研究を積極的に行うことで、教師が互いに学びあう体制を築き、校内全体でICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。 ◆iPadの活用について、どのような場面で、何を目的に活用するのか。更なる試行錯誤と検証を重ねながら、計画的に研修を進めていくことが課題である。						
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	◆家庭・地域と連携して、放課後や夏休みを利用した学力補充を推進していく必要がある。	○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育の推進	○学力向上・生活習慣改善についての小中連携の会議を年間5回以上実施する。 ○学校評価アンケートで、「学校生活は充実している」という肯定的評価の割合が昨年度を上回る。	○授業参観を含めた学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。 ○学習規律について小中学校で共通理解を図り、統一した指導を進める。 ○個々の児童生徒の課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。			
	小・中における教科連携等の状況	○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの連続性を大切にしたい取り組みを進めている。 ○子どもの「学びのすがた」や「育ちのすがた」を共通理解して、積極的な交流が行っている。						